

【参加費等】

① 大会参加費は、17日(土)・18日(日)両日参加、17日(土)のみの参加の方は、2,000円(学生1,000円)、18日(日)のみ参加の方は1,000円(学生500円)です。

② 宿泊代(シーツ代)は、宿泊数に関係なく一律300円です。

③ 16日(金)の情報交換会の参加費は、3,000円(学生1,000円)です。

④ 17日(土)の大会交流会の参加費は、4,000円(学生2,000円)です。

⑤ 食堂の御利用は、朝食600円、昼食700円(事前予約)です。

なお、5月17日(土)の昼食のメニューはカレーとさせていただきます。(苦手な方は、各自でご準備ください。)

それ以外は、ピュッフェスタイルでの提供となります。

※ 当日の受付にておつりが生じないように御準備ください。

【申込方法】電子申請(福岡県立社会教育総合センターホームページ)…右下二次元コードからお申込みください。

申込内容の漏れ等を防ぐため、電子申請による手続きでのお申し込みをお願いしております。

なお、電子申請が御不安な方は、直接お電話ください。入力方法の説明や、代行入力をします。

お困りの際や、団体でのお申込等は、一度ご連絡ください。

※申込締切 令和7年5月6日(火)

※締切以降は、「当日参加」の受付となります。

「当日参加」は、宿泊と食堂での朝食・昼食がご利用いただけません。(情報交換会・大会交流会は当日でもお申し込みいただけます。)

※手話通訳を御希望の方は、備考欄に記入されるか、電話、メール等で事前にお申し出ください。

【申込の手引】

1 カメラを起動し、二次元コードに向ける

2 リンク先をおす(黄色)

3 項目にそって入力

[1] 申込み代表者の所属名

所属がない方は、「なし」と入力ください。(100文字まで)

未来の必要課

[2] 申込み代表者氏名

(100文字まで)

福岡 太郎

4 一番下まで入力「確認」をおす

確認

一時保存 入力途中の内

(保存する場合は、「一時保存」をおす)

5 内容を確認していく

① まだ申請は完了しておりません。入力内容を確認し、よろしければ「送信」ボタンを押してください。

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第40回大会参加申込

◎一度に5名まで御申込みできます。

※6名以上の申込みは、この申込み完了後、再度、申込フォームに御入力ください。

6 内容を確認していく

[3] 申込み代表者氏名(フリガナ)

フクオカ タロウ

[4] 申込み代表者の職名

社会教育主事

[5] 申込み代表者住所

一番下まで見ていく

7 チェックを入れて「送信」をおす

※受付確認メールに申請内容を記載する

送信

入力し直す

お問い合わせ先

福岡県立社会教育総合センター(大会事務局)

電話番号 092-947-3512

メールアドレス kensyu-ivouho@pref.fukuoka

8 送信完了

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第40回大会参加申込

送信が完了しました。

こちらから申請書のPDFをダウンロードできます。

PDFダウンロード

9 内容確認メールを受信

申込みを受け付けました

この度は、中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第40回大会への申込みをありがとうございました。キャンセル・変更については、電話での連絡をお願いします。

※申込み受付後、必ずこのメールを受信してください。

[4] 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第40回大会参加申込(テスト)

[5] 申込み完了 2023/04/06 15:17

[6] 申込み完了 2023/04/06 15:17

[7] 申込み代表者の所属名

[8] 申込み代表者氏名

福岡 太郎

申込完了

※例は40回大会のものです。

【留意事項】

① 食事のキャンセルは、申込締切日(5/6)までです。キャンセルの連絡がない場合、お申込みいただいた食費(情報交換会・大会交流会も含む)をお支払いいただきます。

② 宿泊場所は当センター併設の「少年自然の家」です。タオル・歯ブラシ、スリッパ等、身の回りの品は御持参ください。石けん・シャンプーは浴場に設置しています。

③ 領収書は受付にてお申し付けください。

お問合せ先

福岡県立社会教育総合センター 調査・研修班 〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
TEL:092-947-3512 FAX:092-947-8029 E-mail:chosa-kenshu@pref.fukuoka.lg.jp

生涯教育・生涯学習の実践が集う

中国・四国・九州地区

生涯教育第42回大会
実践研究交流会

期 日

令和7年5月17日(土)・18日(日)
〔情報交換会5月16日(金)〕

場 所

福岡県立社会教育総合センター
(福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2)
TEL:092-947-3512 FAX:092-947-8029

日程・プログラム

前日
5.16
FRI

19:00 20:00 20:30

情報交換会 実行委員会

1日目
5.17
SAT

9:15 10:00 10:30 12:20 13:10 13:50 15:40

受付 開会式 実践発表① 昼食 受付 実践発表②

移動

16:00 16:30 17:00 19:00

特別報告
□演「教育が社会を変える
～今こそ意識改革～」
報告者 矢野 大和
(「笑わせたいわ笑学校」校長・
鷹鳥屋神社宮司)

第42回
大会交流会

フリータイム

2日目
5.18
SUN

8:30 9:00 11:30 12:00

受付 特別企画 青少年教育の原点と「未来の必要」
～今、改めて問い直す社会教育の役割～
【第1部】「家庭教育調査結果にみる保護者の実態と社会教育の役割
～40年間で何が変わったのか、何が必要なのか、何ができるのか～」
鼎 談 森本 精造(元飯塚市教育委員会教育長)
菊川 律子(放送大学名誉教授、社会教育士)
石津 峰(福岡県立社会教育総合センター参事兼社会教育振興室長)
【第2部】「子どもを核にした人づくり・地域づくりと社会教育の底力
～地域が子どもを育む!益田市の挑戦～」
登壇者 大畑 伸幸(NPO法人おむすび理事長、
元益田市ひとづくり推進監兼社会教育課長)
聞き手 古市 勝也(九州共立大学名誉教授)
木原 忠(前宇美町町長)

総括
閉会式

昼食

主 催

福岡県教育委員会 日本生涯教育学会九州支部

主 管

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第42回大会実行委員会
福岡県立社会教育総合センター

5/16(金)

5/17(土)

テーマ:「人づくり」こそが未来を創る～「現代教育の忘れもの」を問う～

SDGs(持続可能な開発目標)が国連で採択されて以降、“持続可能な”を冠したテーマが増えました。「持続可能な地域づくり」もよく目にします。持続可能性が掲げられるということは、現実には「今のままでは持続が難しい」という認識があるからでしょう。SDGsではさまざまな課題解決の目標が掲げられていますが、考えてみると(当たり前のことですが)問題を起こすのも解決するのも社会を動かすのも「人」です。すなわち、将来を見据えた「人づくり=教育」こそが持続可能な未来を創る鍵であると言えますよう。

残念ながら、子どもたちの心配な状況があります。子どもの数は減少しているのに、不登校状態の小中学生34万余人、11年連続増加で過去最多、いじめ認知件数も過去最多、自殺した児童・生徒は過去3番目の多さ(2024年、文科省)と報告されています。SNSを介して犯罪に手を染めたり巻き込まれたりする若者も後を絶ちません。学習指導要領では長く「生きる力」の育成を掲げてきましたが、その力は期待通りに培われているでしょうか。子ども・若者の健やかな成長・発達は、個人にとっても社会にとっても最重要課題です。

約40年前、三浦清一郎先生(当時、福岡教育大学)のもと、青少年教育キャンプを実施、その教育理念、指導原理と成果を『現代教育の忘れもの』として刊行しました。提案は人生を生き抜く力を育む体験を盛り込んだ「欠損体験の補完」プログラムであり、自立のトレーニングです。結論だけ言えば、子どもたちは「やればできる」、「できないのはやっていないから」でした。生活様式の変化に加えて過保護の風潮も逆風でした。私たちの40年前の懸念は今、さらに深刻になっていると感じます。家庭も学校も地域社会も何を忘れてきたのか、未来のために何が必要か、青少年教育の原点を見つめ直したいと特別企画を考えました。

今年も「未来を展望する素材」となる24事例が集まりました。時代の厳しい状況の中でも、過去の蓄積を大切にしつつ新たな試みに挑戦する取組、試行錯誤しながら前向きに地域の人づくり・つながりづくりに奮闘している方々の熱気が伝わってくる実践の数々に勇気づけられます。ご推薦いただいた各県実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

本会をご支援・ご指導くださいます福岡県教育委員会、福岡県立社会教育総合センターに厚く御礼申し上げます。

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人 大島 まな

5/16(金)

5/17(土)

情報交換会 19:00～

大会前夜からの参加者、各県実行委員会委員との情報交換の場です。一緒に食事をとりながら、ゆっくりと御歓談ください。

開会式 10:00～10:30 講堂

午前 実践発表① 10:30～12:20

第4研修室 第1会場

■ 持続可能な地域学校協働活動事業に向けて～地域と学校をつなぐ公立公民館の取組～ 安徳 和幸(福岡県八女市)

■ 奄美群島日本復帰 70 周年記念の取組 野村 貴幸(鹿児島県大島地区)

■ 移住者と地元(じげ)をつないだ公民館自主講座「まなびや～ひのたに学舎～」 前川 仁三夫(鳥取県日野郡江府町)

自由研修室 第2会場

■ 子どもの“ワクワク”が社会を動かす！～地域 × 企業 × 行政 × 大学 × 個人で探る新しい学びのカタチ 柳 まり子(長崎県長崎市)

■ 地域全体で子どもを育てる体制づくりと社会教育委員～答申書「地域学校協働活動の充実」に関する取組を通して～ 松延 聡(福岡県大川市)

■ 公民館は可能性の塊！！～地域を耕し、人を繋げ、住民から愛される公民館～ 円山 洋輔(鳥根県鹿足郡吉賀町)

視聴覚室 第3会場

■ 今、私たちにできることは何か？ 伊東 つづみ・合田 柚葵・立花 日和(愛媛県新居浜市)

■ 全国の自治体初！生涯学習・社会教育行政における学びの履歴のデジタル化！～いつでも、どこでも、スマホで提示！オープンバッジの可能性！～ 吉長 愛・村澤 孝経(広島県広島市ほか)

■ スポーツの力で元気な子ども達を育てるしくみ～地域スポーツクラブ(社会体育)の可能性を探る～ 藤木 祐一郎(福岡県糟屋郡宇美町)

大研修室 第4会場

■ コミュニティ・スクールにむけた PTA 活動の4年間～子ども達が通いたくなる学校づくりを目指して～ 山崎 新(沖縄県豊見城市)

■ 「ママが笑えば子も笑う」、0歳も 100歳も互助で共に学びつながる地域の輪の活動 中島 直子(佐賀県唐津市)

■ 紙芝居が取り持つ、子ども達と高齢者の心のつながりを栄養に 久保田 哲寛・津曲 誠・久保田 章子(宮崎県都城市)

ふるさと自慢ポスター展

あなたのまちの「むらおこし」「まちづくり」「ひとづくり」などのイベントポスターやチラシで、故郷自慢を広くアピールしませんか？

■参加資格 誰でも展示できます。

■出品数 1イベント1点

■提出方法 大会当日受付にてお申し出ください。

■留意事項 ポスター・チラシに限ります。展示品は返却できません。

午後 実践発表② 13:50～15:40

第4研修室 第1会場

■ 「市子連」と「市教委」が両輪となった空前絶後の子ども会活性化策 中村 明博(鹿児島県鹿屋市)

■ 公民館と自治振興会の両輪で住民パワーを生かした地域づくりに関する研究 高橋 利英(鳥根県飯石郡飯南町)

■ アンコンシャスバイアスに気づく旅～平和を願い「つくる」ための対話と学び～ 高木 あゆみ(熊本県熊本市)

自由研修室 第2会場

■ 朝市を復活させた鬼嫁たち手作りの松崎名物「三八市」～かつての賑わいをもう一度～ 野口 智恵子・小芦 洋恵・三津國 美枝子(鳥取県東伯郡湯梨浜町)

■ 市民向け生成 AI 講座「AI 探検隊」 上原 泰三(佐賀県伊万里市)

■ 子どもも大人も心が軽くなる居場所づくりに関する研究～こころの銭湯「まんまある」の取組～ 貞平 理恵(山口県防府市)

視聴覚室 第3会場

■ 10周年を迎えた記念行事が地域のつながりを具現化！～芝生化された小学校のグラウンドが地域のつながりを育んだ～ 菅 新汰(山口県山口市)

■ 子どもたちの「自己肯定感・対話力・郷土愛」を育むために～美里町におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を通して～ 上田 英二・大原 明恵・宮崎 保(熊本県下益城郡美里町)

■ 学校教育課題に応える学校運営協議会制度の役割と成果～別府市立石垣小学校学校運営協議会 10年間の取組～ 中川 忠宣(大分県別府市)

大研修室 第4会場

■ 「楽しい」市民活動の乱発が、ネットワークではない新たなつながりを生む～元益田市派遣社会教育主事が取り組む新しい市民活動の育成～ 谷上 元織(鳥根県益田市)

■ 「冒険的組織」と「弱いつながりの強さ」が生み出す地域と学校の変革～岡山県高梁市の学校地域の共創事例～ 横山 弘毅(岡山県高梁市)

■ 薩摩川内市の人材養成講座～「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を目指す効果的なプログラム～ 東原 辰巳(鹿児島県薩摩川内市)

特別報告 16:00～16:30 講堂

口演「教育が社会を変える～今こそ意識改革～」 報告者 矢野 大和
(「笑わせたいわ笑学校」校長、鷹鳥屋神社宮司)

第42回大会交流会 17:00～19:00 体育館

参加者、事例発表者、各県実行委員会委員が一堂に会して、交流を深める場です。以下の内容で実施します。たくさんの方々の御参加をお待ちしています。

5/18(日)

食事、各都道府県の紹介、歓談(名刺交換)、おらがまちの名物自慢(特産品)オークション

第42回大会 特別企画 9:00～11:30 講堂

青少年教育の原点と「未来の必要」～今、改めて問い直す社会教育の役割～

第1部 「家庭教育調査結果にみる保護者の実態と社会教育の役割～40年間で何が変わったのか、何が必要なのか、何ができるのか～」

鼎 談 森本 精造(元飯塚市教育委員会教育長)

菊川 律子(放送大学名誉教授、社会教育士)

石津 峰(福岡県立社会教育総合センター参事兼社会教育振興室長)

第2部 「子どもを核にした人づくり・地域づくりと社会教育の底力～地域が子どもを育む！益田市の挑戦～」

登壇者 大畑 伸幸(NPO法人おむすび理事長、元益田市ひとづくり推進監兼社会教育課長)

聞き手 古市 勝也(九州共立大学名誉教授)

木原 忠(前宇美町町長)

総括閉会式 11:30～12:00 講堂

※内容は令和7年3月末日現在のもので、変更になる可能性があります。

「おらがまちの名物自慢」

あなたのまちの名物は何ですか?地酒・焼酎・海産物・お菓子……。毎回、参加者がお国自慢の品々を持ち寄る「おらがまちの名物自慢」。「オークション」での競売を行います。大会当日、専用受付にて、所属・氏名・特産品名・セールスポイント・設定金額等を御記入いただき、お預けください。

たくさんのお参加、お待ちしております。

※「生もの」や「手作り雑貨」の出品は、なるべく御遠慮ください。

